## ウンシュウミカン・アボカド 適地移動予測マップ

2025 年 3 月 7 日 農研機構

## はじめに

果樹は気候への依存性が極めて高いため、温暖化の進行は、果樹の栽培適地を移動させる可能性があります。実際にウンシュウミカン産地では、日焼けや浮皮などの高温障害が増えつつあります。また、栽植してから 30 年程度は同じ樹で生産を継続する必要があるために、産地ごとに将来の気候変化に合わせた長期的な生産計画を検討すべき時期に来ています。

一方、被害対策だけでなく、気候変動がもたらす機会を活かすことも重要です。 現在、亜熱帯果樹の栽培適地は南西諸島や伊豆・小笠原諸島など島嶼部が中心で すが、今後、本州などに大きく広がる可能性があります。亜熱帯果樹のうち、最 も輸入量の多いアボカドは、国内で一定量が生産され、99.9%を輸入に依存して いる現状から脱却が期待されます。

そこで農研機構は、現在(今世紀始め、1990~2009年)、今世紀半ば(2040~2059年)、今世紀末(2080~2099年)におけるウンシュウミカンとアボカドの適地移動を予測し、詳細なマップを開発しました。本マップは、生産者の栽培計画や自治体による地域気候変動適応計画の検討・策定に活用できます。

## 本マップの特徴

- ・本マップは 2025 年 3 月 7 日に実施された、農研機構によるプレスリリース 「温暖化に対応したミカンとアボカドの適地予測マップー 各産地での気候 変動適応計画の策定に活用できますー」に対応して公表するものです (https://www.naro.go.jp/publicity\_report/press/laboratory/nifts/167624.ht ml)。詳細はプレスリリースをご確認ください。
- ・現在に対する気温の上昇量はメッシュごとに異なりますが、全メッシュの上昇量を平均すると、SSP1-RCP2.6、SSP2-RCP4.5、SSP5-RCP8.5 はそれぞれ、1.6、1.8、2.3 $^{\circ}$  (今世紀半ば) あるいは 1.4、2.6、4.3 $^{\circ}$  (今世紀末) です。
- ・今世紀半ばと今世紀末の気温は、国立環境研究所が開発した「CMIP6 をベースにした CDFDM 手法による日本域バイアス補正気候シナリオデータ (NIES2020)」(石崎, 2021) のうち、1 つの全球気候モデル (MRI-ESM2-0) による3つのシナリオ (SSP1-RCP2.6、SSP2-RCP4.5、SSP5-RCP8.5) の値を使用しています。また、現在の気温 (観測値) は農研機構が開発した「メッシュ農業気象データ」の値を使用しています。
- ・都道府県または市町村レベルで参照する場合は 2000~3000%程度に拡大表示 させてください。
- ・本資料の掲載内容については、無断で転載、複製、放送、販売などに利用することはできません。

【問い合わせ先】農研機構 果樹茶業研究部門 果樹生産研究領域 〒305-8605 つくば市藤本 2-1 電話:029-838-6416(代)

## 目 次

ウンシュウミカン、現在(1990~2009 年) ・・・・・・・・・	••1
ウンシュウミカン、今世紀半ば(2040~2059 年)、SSP1-RCP2.6 ・	• • 2
ウンシュウミカン、今世紀末(2080~2099 年)、SSP1-RCP2.6 ・・	• • 3
ウンシュウミカン、今世紀半ば(2040~2059 年)、SSP2-RCP4.5 ・	• • 4
ウンシュウミカン、今世紀末(2080~2099 年)、SSP2-RCP4.5 ・・	• • 5
ウンシュウミカン、今世紀半ば(2040~2059 年)、SSP5-RCP8.5 ・	• • 6
ウンシュウミカン、今世紀末 (2080~2099 年)、SSP5-RCP8.5 ・・	• • 7
アボカド、現在(1990~2009年) ・・・・・・・・・・・・・	• • 8
アボカド、今世紀半ば (2040~2059年)、SSP1-RCP2.6 ・・・・・	• • 9
アボカド、今世紀末 (2080~2099 年)、SSP1-RCP2.6 ・・・・・・	
アボカド、今世紀半ば (2040~2059 年)、SSP2-RCP4.5 ・・・・・	• • 11
アボカド、今世紀末 (2080~2099 年)、SSP2-RCP4.5 ・・・・・・	• • 12
アボカド、今世紀半ば(2040~2059 年)、SSP5-RCP8.5 · · · · · ·	
アボカド、今世紀末 (2080~2099 年)、SSP5-RCP8.5 ・・・・・・	• • 14



























